

すべての楽器に命が宿る

奏インシュレーターにスピーカー専用モデルが登場

ブレーキ摩擦材の技術から生まれた画期的なインシュレーター「KaNaDe01」が、「オーディオアクセサリ-銘機賞2017」を受賞した。5年の歳月をかけ、すべての楽器に命が宿る最適な配合比(8種のマテリアル)と絶妙な音のチューンでオーディオリスナーの心を捉え、新風を巻き起こしているのは周知のとおり。そんな期待のなか、さらにインパクトのある第2弾として今回登場するのが「KaNaDe02」だ。(株)金井製作所、インシュレーター部の開発担当である小林 満さんに「2」の魅力や誕生秘話など伺おう。

Text by
林 正儀
Masanori Hayashi

サイズは従来モデルの2倍 1個使いのインシュレーター

はじめて対面した「2」は、ビツクリする大きさである。目の前に並べられた初代「1」と比べても、地球と月ぐらいの関係だ。実際は直径100mmと2倍になっており、ご覧のように「1個使いのブックシェルフ用インシュレータータイプ」なのです。

私は精密加工の粋を見るような、前号の工場訪問を思い出していた。混合粉末を金型に入れて加熱圧縮。そして仕上げの研磨工程など、針穴をも通す職人芸に感嘆しきりである。でき上がった「KaNaDe01」は底面が赤いフェルト貼りで、音圧バランスのために十字の溝が切つてある。

両面に溝がカットされ 表と裏は非対称な形状

原料や配合比などは同じということだが、改めて「1」と「2」はどう違うのか。そもそも4個が1個になった理由から伺うと、「スピーカーは四隅(対角線)にいくほど振動が大きくなります。そこに置くと振動を止めてしまう」。だからフリーに動けるように、重心点で受けるようにしたそうだ。

ちなみに「1」はプレーヤー、アンプなどの前段用である。「2」は大きい粉末の量は「1」の4個分、

というのおもしろい。

それより注目したいのは、「2」ではフェルトが省かれ、両面に溝がカットされている点だ(1は片面のみ)。しかもスピーカー側の表面と裏面とは、放射状の溝のパターンが異なる。溝の数の多い少ないだけでなく、よく見ると十字の溝が表・裏で45度ひねられていた。これはなぜだろう。

「KaNaDe02はスピーカーの振動と一緒に同調させ、音に働きかけるため、重心位置に(+)向きに一点で支えます。一方裏側は設置面に振動を伝えないよう、いわば(X)向きに、非対称にしてあるのです。対称なのも作ってみたが全くダメでしたね」小さなスリットの長さで音場の広がり方が決まるそうだが、小林さん独自のセオ

リーには説得力がある。

限界までの研磨精度で 圧倒的な密着度を実現

もちろん強い振動を逃がす穴を中心に開けておくわけだ。「これによって音質が安定します」。スピーカーを内振りにセットする場合も、ユニットの中心軸にあわせて「+」マークを合わせればよいわけ



奏 KaNaDe®
KaNaDe01

¥12,000(4個・税込) Amazonにて販売中

- 材質：特殊開発の樹脂+特殊フェルト
- サイズ：50mmφ×15Hmm ●質量：約55g(1個)